

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273500155		
法人名	社会福祉法人 はつらつの里		
事業所名	グループホーム はつらつ宮の原		
所在地	千葉県八街市山田台宮の原966番地ノ2		
自己評価作成日	2024年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2024年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、ゆとりある時間と住居の中で、個性を尊重した家庭的な環境の下で、入居者様お一人お一人が楽しく生き甲斐のある生活を実現できるように支援いたします。温もり・家庭・馴染み・笑顔・怒の心を理念に掲げ全職員で共有しより良いサービスを実践できるよう努めます。新型コロナウイルス感染防止の為、多人数や長時間の外出が出来ないため、レクリエーションの充実を図り職員と入居者様一緒に季節の飾りや、職員の考えたゲーム等を行い、楽しんでいただきたいと思います。ご家族様と利用者様、そして当施設とのより深いつながりや信頼関係を保てるように、日々の近況や健康状態等を細やかに連絡していきます。家庭生活で行っていた日々の食事作りや掃除等を毎日の生活日課に取り入れ、活き活きとした張りのある生活作りに努めます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

農村地にある和風の2階建て、広い庭があり、岩風呂という施設面の特長もさることながら、1ユニットの利用者に対して、ホーム長以下全職員が心を込めて支援している。人手は充実とは言えないが幸い経験年数が長い職員が多く週4回の入浴支援、朝食後は1時間近くかけての健康体操(パタカラ体操や早口言葉)などに取り組み喜ばれている。農家や家族からの野菜等の差入も多く、職員手作りの食事は、おいしいとの利用者の声である。屋外での仕事が好きな方へは、庭の手入れや野菜栽培に取り組んで頂く等、一人ひとりの希望に応じた支援である。ホーム長は来訪が少ない家族には、電話をかけ、訪問を促して疎遠にならないように家族との繋がりを支援している。自宅にいるような感じで暮せる家庭的なホームであり、アンケートでも運営に対する満足度は高い。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します(○ 印を記入ください)

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	社会福祉法人 はつらつの里 グループホーム はつらつ宮の原	ホームの理念や毎年度の目標をホーム内に掲げ、全職員で実践及び評価を行っている。	法人の理念(里訓)や方針を掲示して、ホーム会議や必要な都度話し合い、方針に基づく運営を実践しているかを確認している。	理念や目標などをホームページやお知らせなどに掲載して、外部の方にアピールできるような工夫をご検討頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来は日常的に交流を図っていたが、新型コロナウイルス感染防止のため、今年度は実施しておりません。	地域での取組が未だ復活していない。カラオケ大会への参加予定も罹患もいたので中止するなど、交流は限定的である。散歩時などは住民と挨拶交わし、農家から野菜の差し入れもある。外食も次年度から復活させる予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	従来は認知症カフェ等を行い地域の方への支援を行ってきたが、新型コロナウイルス感染防止のため、今年度は実施しておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より再開しているが、感染防止の観点から少人数で実施している。	参加メンバーは家族(4~5人)、地域住民とホーム(施設長、介護担当)にて、年間2回の再開しているが、市関係者の参加は未だ無い。活動状況、行事報告議案をもとに話し合っている。	半数近い家族の参加は大いに有難いものの、行政関係(市や地域包括支援センター)や外部有識者の参加もご検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己評価の結果、入居状況等について相談等、市担当者で面談している。また町の研修等、施設等の運営について話したりしている。	市の窓口は、高齢者福祉課だが、報告相談はメールや電話で行い、高齢者福祉課担当者が時々立ち寄ることもある。市主催のケアマネ研修会、身体拘束廃止などの研修会に参加し、交流を不赤めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止的成果委員会を開催。また法人内研修として外部の方を講師としてオンラインでの研修に参加し、身体拘束についての理解と周知に努めています。	職員全員対象の法人本部主催ZOOM研修と、ホーム主催の身体拘束及び虐待、人権に関する研修会があり、研修後は議事録を作成する。ホーム会議、日々の申し送り、話し合いの中で、実践しているかを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の方を講師としてオンラインでの研修に参加している。また施設内研修も実施し、行動制限しないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の方を講師としてオンラインでの研修を実施。また内部研修を実施し、理解に努めている。権利擁護についての簡単な試験を実施し、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族と十分に話し合い不安や疑問に思う点についての説明を行っている。来所が難しいご家族様についても電話やFAX、その他の手段を用いて積極的に行動している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の第三者委員の他、ご意見箱を設置し、運営に生かせるようにしている。	職員は支援の中で要望や意見を聞き、申し送り時に全職員で共有している。家族来訪頻度はバラツキがあるので、ホーム長は月1回は電話して要望を聞き、支援に反映している。訪問頻度が少ない家族へは、定期的な訪問を呼びかけ、利用者との関係が薄れないようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や研修実施の終了後に意見を聞く時間を設け、積極的に発言してもらえるような機会を設けている。	少人数の職員ということもあり、コミュニケーションの良い職場である。ホーム長が毎月のホーム(職員)会議やカンファレンス、申し送りの機会を通して、意見を把握している。接遇のやり方、利用者のやりたい仕事や時間の過ごし方などの提案を実際の支援に取り入れ成果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に業務評価を定期的に行っている。各自が向上心を持って働けるように環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議の際に個人的な意見も傾聴し、実践に取り入れている。個々に介護技術の向上のため、トレーニングを実施し、指導している。個人面談を実施し、悩みや考えを傾聴している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内部の各部会に参加し専門的知識や同業者との交流を図っている。市内の同業者とも電話ではあるが交流を積極的に図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申請時本人やご家族と面談又は自宅や病院に訪問し、本人の不安や要望に耳を傾け信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請時よりご家族、本人、ケアマネとの個別の機会を設け、不安な点や疑問の聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談やインテーク時に関わりのある方に様子をお聞きし、ご本人にも希望をお聞きし希望だけでなく現在必要としているサービスの提供に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思をできるだけ尊重し、ご家族様よりの聞き取り等の結果をケアプランに盛り込み、「支えあう生活」ができるような関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1か月に1度ご家族に電話にて近況を報告し、来所をお願いしている。本人には、会話にご家族と話を盛り込み、関係を継続していただけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りやイベントなど昔馴染みの場所や行事に出掛け、他者との関係継続に努めている。 親類や知人の方が訪問され、昔からの関係を保っている。	定期的に来られる家族もいる一方、面会が少ない方もいる。一番の馴染みの人である家族が面会に来てくださるようお願いして関係が続くように配慮している。地域のカラオケ大会のお誘いもあり、祭りや初詣にも出かけ馴染みの場との継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作品作りやレクリエーション等、日常の活動を通して一緒に考え、行動することを通して、仲間として支えあいの気持ちを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても連絡をとり、ご家族様や本人の様子を伺い、入所中からの信頼関係を維持できるよう支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話やご家族様からお聞きした生活歴などから意向の把握に努めている。ご本人様からの訴えが困難な場合は、仕草や表情から意向をくみ取れるよう努めている。	入居時は居宅介護支援専門員や家族から聞き、日常的にはそれぞれのお気に入りの職員との昔話の中から本人の思いを知ることがある。職員が介護している時の何気ない言動から本人の思いを知り、それを職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境、サービス利用経験などはほぼ把握できている。 本人の話を聞いたり、ご家族来所時に必要な情報を得、基本情報・ケア対応に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団で実施できるものは一緒に行い、残存機能に応じて個々で行えることを実施している。また、その日の状況等も考えてのケアを実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月に1度のお電話にてその人らしさについて意見を伺い介護計画に盛り込んでいく。また、カンファレンスの際にも「その時」の状況に応じたケアができるよう努めている。	介護計画のモニタリングを3か月に一度行い達成状況を確認し、半年毎に担当者会議で職員から意見を聞いている。職員は申し送り時などで利用者の状態をよく話し合っており、現状に合った計画が作成され家族に説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者様の様子や言動に注意し、職員間で情報を共有、利用者様のケアについて職員同士で話し合い、どうすればよくなっていくか話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況を考えながら、臨機応変なケアに取り組んでいる。ご家族様からの訴え等も把握しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今出来る可能な範囲で、民生委員、ボランティア、知人、警察、消防、近隣住民の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族、本人の希望を聞き取りしかかりつけ医に相談している。また、都度都度かかりつけ医に相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者の大半が2週間毎にかかりつけ医の訪問診療を受診している。家族の希望で在宅時の主治医に通院を継続している利用者もいる。適切な服薬等をしてもらうためにホームでの様子を伝えて支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の受診の際に普段の生活での気づき等を相談している。また、普段から法人内の看護に相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と密に連絡を取れるような関係づくりを行っている。入院の際はご家族様と病院の橋渡しができるよう努めている。退院については、密に病院関係者と連絡を取り合い情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、ターミナルケアは実践していない為、当ホームでの対応が難しいと考えられた場合は、協力医療機関又は老健施設への入所等を薦めている。	入居契約時にホームの重度化と終末期の方針を説明し家族の同意を得ている。ホームでの生活が困難になった時には家族と話し合い、法人の老健の専門職員に今後の対応を相談することもある。体調の急変時等には法人の看護師と協力病院に相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部の研修を通して速やかに実践できるよう行っている。内部研修では職員同士で実地で研修を行い、不測の事態に備えている。マニュアルを整備し、毎回確認を行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPや連絡網を作成。特にBCPでは研修を行い、実地で身に着けるように取り組んでいる。	10月に火災想定、2月に地震想定自主訓練を行い、従来の防災訓練に加えBCP(業務継続計画)をリスクマネジメント会社と相談して作成した。BCPについて法人内研修とホームの職員研修の計2回を実施している。災害時には近隣の「憩いの家」が避難所になっているが、近くにある法人系列の施設へ避難する事も予定している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーの確保については、内部研修、オンライン研修を実施し、職員同士でも意見が言えるようより組んでいる。	トイレ介助時や入浴時の衣類着脱時などは羞恥心や、プライバシーを配慮した介護に取組んでいる。家族と話し合った上で呼び名や方言を使う等、本人に会話が伝わりやすくなるような工夫をしつつ言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のケアの中から希望を聞き取れるよう支援している。ご自分で選ぶことができるように声掛けをし、決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその日の体調や気分、天気等を見極め声掛けなどで意向を確認している。一人ひとりのペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に本人の希望を聞きながら支援している。買い物に職員が同行し、傾聴しながら支援している。希望を尊重しながら季節に合わせた身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事づくりや片付けを行い、個々の好みの把握に努めている。行事食や施設庭での食事等、普段とは違う食卓作りも積極的に行い食事を楽しんで頂いている。	食品宅配業者から配達された食材を職員が調理している。ホームの菜園で育てた野菜や近所から頂いた野菜を利用者が下洗いをしたり、テーブル拭き、食器の下膳等活躍できる場面作りに工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回の健康診断の他、毎月の体重測定や毎日のバイタル測定で入居者様の健康観察を行っている。排便の記録も個々の状態に応じて記録を行っている。水分摂取においては毎日の記録を行い観察を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。毎月の訪問歯科のアドバイスもお聞きしながら口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけによりトイレ誘導、夜間も声かけにより失敗がないよう、自尊心を傷つけないような声かけを行っている。なるべくおむつを使用しないよう心掛けている。	定期的にトイレ誘導を行い、排泄表を用いて時間や排便の状態等を記録して日々確認し、一人ひとりの状態に合わせて排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分を多く含んだおやつ作りを行っている。出来るだけ薬に頼らずにスムーズな排便になるよう、法人内の栄養士や理学療法士の助言を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人個人のタイミングをみて入浴の声掛けを行い、楽しんでいただけるよう、入浴剤等でも変化をつけて楽しんでいただいている。	週2回入浴を基本とし自立の方は週4回入浴している。庭で育てたラベンダーをレクリエーション時に入浴剤に作り、それを浮かべて香を楽しんでいる。大きな岩風呂で庭の花壇をみながら入浴を楽しむことができる。車椅子利用者にはリフトが設置されて安全な入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に配慮しながら個々の好みや状況に応じて長時間睡眠をとっていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬の際に薬の内容や副作用について職員間で情報を共有し、連絡帳にも内容について記載し、理解できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や家族環境等に応じて、本人の残存機能に応じた役割をお願いし、気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため、長時間の外出や人混みを避け、少人数で短時間での外出の機会を積極的に設けている。	一対一で近くを散歩を出かけたり、広い庭で外気浴をするようにしている。花見、いちご狩り、紫陽花、コスモス見学、初詣等、年間計画を立ててコロナ感染症対策を行いながら留意しつつ外出支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じた支援を行っている。お金を所持していることで安心する方は、小額であるが所持しており、トラブルにならないように気配りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時にかけられるよう支援している。電話や手紙が難しい方には職員が説明や代筆し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花を飾り、四季を通して季節を感じることが出来る工夫をしている。 ホール内の壁に季節を感じる製作物や楽しかった思い出を飾っている。居間や居室は光を多く取り入れる工夫や壁の色等にも配慮している。	レクリエーション時に季節ごとの作品作りに取り組み、皆で作成した紅葉やヒガンバナ、鶴の折り紙等がリビング壁に綺麗に掲示されており、陽当たりがよく居心地よく過ごせる場になっている。トイレと洗面所や風呂場に行く廊下の両側に手摺があり安全でわかりやすい配置になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の気持ちを会話や表情からくみ取り、その時の気分で過ごしていただけるよう支援に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約前よりご家族様に依頼し、馴染みの品や好みの品を居室に置いて居心地の良い空間作りを目指している。	家族と相談して自宅から持参した写真や人形など本お気に入りのものを飾り、落ち着いた部屋になっている。動線と安全性を考慮して、ベッドと家具を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の方にも理解できるように努めている。居室やホールの動線もわかりやすく設定し、安全かつ自立支援に努めている。		